

令和 7 年用ぶどう(デラウェア)病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	露 地 栽 培	雨よけ・無加温ハウス栽培	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴											
		薬剤名及び濃度 (水100 ℓ 当たり薬量)	薬剤名及び濃度 (水100 ℓ 当たり薬量)																
① （ビニール被 覆前）	晩 腐 病 褐 斑 と う 病	1. ベフラン液剤25㊟ 250倍（400ml）		休 眠 期	1 回	200 ℓ	1. 雨よけ・無加温ハウス栽培 で褐斑病が多い園では、ベ フラン液剤25㊟ 250倍（休 眠期、1回）を散布する。 2. 越冬病害虫（褐斑病）の発生 が多い園では、発芽前までに、 石灰硫黄合剤20倍（発芽前、 －）を散布してもよい。但し、 前回散布（①）から7～10日 間隔をあけて散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ											
	ブドウトラカミキリ	2. ラビキラー乳剤㊟ 300倍（333ml）	1. ラビキラー乳剤㊟ 300倍（333ml）	発 芽 前 (休眠期)	2 回 以 内														
発芽 直後		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍（10ml）	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍（10ml）			200 ℓ	1. 訪花昆虫保護のため、隣接 園の飛散には十分注意する。 2. アディオン水和剤はカスミ カメムシ類に対する効果が 期待される。	散布日 月 日 散布量 ℓ											
	フタテンヒメヨコバイ	2. アディオン水和剤 2,000倍（50 g）	2. アディオン水和剤 2,000倍（50 g）	7 日 前 ま で	5 回 以 内														
② 展 葉 初 期		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍（10ml）	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍（10ml）			200 ℓ	1. コガネムシ類（サルハムシ） が多い園では、アディオン 水和剤2,000倍（7 日前ま で、5回以内）を第1回ジ ベ処理前に散布する。 2. 前年フタテンヒメヨコバイ の発生が見られた園では本 防除を徹底する。	散布日 月 日 散布量 ℓ											
	べ と う 病 黒 と う 病 褐 斑 病 晩 腐 病	2. ペンコゼブ水和剤 1,000倍（100 g）	2. ペンコゼブ水和剤 1,000倍（100g）	45 日 前 ま で	2 回 以 内														
	ブドウスカシバ フタテンヒメヨコバイ	3. サイアノックス水和剤 1,000倍（100 g）	3. サイアノックス水和剤 1,000倍（100 g）	21 日 前 ま で	2 回 以 内														
	降雨が多い場合は、この時期以降灰色かび病予防のため、ロブラール水和剤 1,500倍（開花期～幼果期、但し、収穫60日前まで、3回以内）を散布する。																		
ジ第 べ 1 処 理 回		ジベレリン 100ppm	ジベレリン 100ppm				1. ジベレリンは水道水で調整 して使用する。 2. 摘芯の代替処理としてフラ スター液剤を新梢展葉時7 ～11枚目（開花始期まで） 下記の通り使用してもよい。 但し、伸長が旺盛な場 合は摘芯を実施する。 <table><tr><td>栽培体系</td><td>希釈倍率</td><td>散布量 (L/10a)</td><td>使用回数</td></tr><tr><td>露地栽培</td><td>1,500～ 2,000倍</td><td>200～ 250</td><td rowspan="2">1 回</td></tr><tr><td>施設栽培</td><td>800～ 1,000倍</td><td>100～ 150</td></tr></table>	栽培体系	希釈倍率	散布量 (L/10a)	使用回数	露地栽培	1,500～ 2,000倍	200～ 250	1 回	施設栽培	800～ 1,000倍	100～ 150	散布日 月 日 散布量 ℓ
栽培体系	希釈倍率	散布量 (L/10a)	使用回数																
露地栽培	1,500～ 2,000倍	200～ 250	1 回																
施設栽培	800～ 1,000倍	100～ 150																	
③ 第 1 回 花 ジ ベ 前 処 理 後	晩 腐 病 灰 色 か び 病	1. スイッチ顆粒水和剤 2,000倍（50 g）	1. スイッチ顆粒水和剤 2,000倍（50 g）	30 日 前 ま で	2 回 以 内	300 ℓ	1. 皮膚カブレのない人は、ス イッチ顆粒水和剤に替えて フロンサイド S C 2,000倍（開 花直前～落弁期。但し、収 穫60日前まで、1回）を散 布してもよい。 2. うどんこ病、黒とう病、灰 色かび病が多い園では、オー シャインフロアブル2,000倍 （7 日前まで、2 回以内） を使用してもよい。 3. べと病が多い園ではリドミル ゴールド MZ1,000倍（45日前 まで、2 回以内）を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ											

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 3. 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
晩 腐 病	1. 施設栽培を導入し、6月中旬までに被覆を行なう。 2. 休眠期に房の取り残し部分、巻ひげ及び結果母枝の枯死部分などの除去を徹底する。
褐 斑 病	1. 休眠期に園内の清掃（落葉処理）、粗皮削りを行う。

ぶどう施肥基準（成木：10a 当たり）

作型・目標収量	肥 料 名	施肥量 (kg)	施肥時期	N	P	K
ハウス雨よけ デラウェア 1,300kg	燐硝安加里 S248(わかみどり)	10kg	8月上旬中旬 (収穫後)	2.0	0.4	0.8
	フレッシュフルーツ有機80	100kg	9月上旬中旬まで	6.0	3.0	2.0
	合 計			8.0	3.4	2.8
ホース露地 デラウェア 1,300kg	フレッシュフルーツ有機80	160kg	9月上旬中旬まで	9.6	4.8	3.2

ジベレリン

品 種	処 理 時 期	濃 度	水 量
デラウェア	1 回目（満開予定日14日前）	100ppm	・スティック（200mg 含有）の場合＝2ℓに1包 ・錠剤（200mg 含有）の場合＝2ℓに8錠
	2 回目（満開約10日後）	75ppm	・スティック（200mg 含有）の場合＝2.67ℓに1包 ・錠剤（200mg 含有）の場合＝2.667ℓに8錠

着色障害防止対策

液 体 マン ガン	水 溶 性 マン ガン 13.5	軽度障害園	2 回目ジベレリン処理時	ジベレリン処理液に1％濃度（ジベレリン処理液2ℓに対し14.5ml）で加用し、浸漬処理する。
			2 回目ジベレリン処理 2～3日前	0.5％液（水200ℓ 当り750ml）を200ℓ / 10a 散布する。
		重度障害園	2 回目ジベレリン処理時	ジベレリン処理液に1％濃度（ジベレリン処理液2ℓに対し14.5ml）で加用し、浸漬処理する。

※施肥対策として、マルチサポート1号（60～80kg/10a）やFTE（4～6kg/10a）など微量要素の補充を心がける。（土壌乾燥は微量要素の吸収を阻害するので、適宜かん水する）

散布時期	適用病害虫	露地栽培	雨よけ・無加温ハウス栽培	収穫前 使用日数	総使用 回数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
		薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)					
④ 落 花 直 後	褐斑病 灰色かび病 黒とう病 べと病	1. アミスター10フロアブル 1,000倍(100mℓ) (30日前まで、3回以内)				300ℓ	1. アミスター10フロアブルに 替えて、インダーフロア ブル8,000倍(30日前まで、 3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類	2. モスピラン顆粒水溶剤 ^劇 2,000倍(50g) (14日前まで、3回以内)						
	ハダニ類		1. ダニコングフロアブル 2,000倍(50mℓ) (前日まで、1回)					
ジ第 べ2 処 理回		ジベレリン 75ppm	ジベレリン 75ppm				1. 灰色かび病が多い園では、 フルピカフロアブル2,000 倍(収穫30日前まで、2回 以内)を散布してもよい。 但し、この回以降果粉溶脱 の恐れがあるので使用しな い。	散布日 月 日 散布量 ℓ
ジ⑤ べ 処第 理 32 日 後回	晩腐病 褐斑病 黒とう病 灰色かび病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50mℓ)	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50mℓ)	前日まで	3回 以内	200ℓ	1. べと病が多い園ではランマ ンフロアブル2,000倍(14日 前まで、3回以内)又は、 レーバスフロアブル2,000倍 (7日前まで、3回以内) を加用する。 2. コガネムシ類(ブドウトリ バ)が多い園では、アディ オン水和剤2,000倍(7日 前まで、5回以内)を、果 梗にも十分かかるよう汚染 に注意して単用散布する。 3. フタテンヒメヨコバイ、 ハダニ類の発生が多い園では サムコルフロアブル10に替 えてアーデントフロアブル 2,000倍(前日まで、4回 以内)を使用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	モンキクロノメイガ	2. サムコルフロアブル10 5,000倍(20mℓ)	2. サムコルフロアブル10 5,000倍(20mℓ)	前日まで	3回 以内			
⑥ 着色 始期	べと病 褐斑病 晩腐病	1. ストロビードライフフロアブル 3,000倍(33g)	1. ストロビードライフフロアブル 3,000倍(33g)	14日前 まで	3回 以内	200ℓ	1. 着色期以降の防除では果粉 溶脱の恐れがあるため、散 布量・希釈倍数に注意する とともに散布の際はスズラン 噴口を使用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
【特 別 】	灰色かび病 褐斑病	1. カナメフロアブル ^劇 4,000倍(25mℓ)	1. カナメフロアブル ^劇 4,000倍(25mℓ)	前日まで	3回 以内	200ℓ	1. 収穫が長引く場合や、降雨 が続く場合に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
へ7⑦ 棚カ 上月サ 散上 け 旬後	さび病 べと病 (褐斑病)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)		—	—	300ℓ	1. 晩腐病、灰色かび病、褐斑 病がみられる園では、IC ボルドー66Dに替えてオン リーワンフロアブル2,000倍 (前日まで、3回以内)を 使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑧ 収 穫 直 後	さび病 べと病 (褐斑病)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	—	—	300ℓ	1. 収穫後遅れないように散布 する。 2. ICボルドー66Dに替えて、 Zボルドー500倍(—、—) を散布してもよい。 3. フタテンヒメヨコバイの見 られる園では本防除を徹底 する。 4. ハダニ類の発生が多い園で はコロマイト水和剤2,000 倍(7日前まで、2回以内) を散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	コガネムシ類 ブドウラカミキリ フタテンヒメヨコバイ	2. スミチオン水和剤40 800倍(125g)	2. スミチオン水和剤40 800倍(125g)	90日前 まで	2回 以内			
14前 日収 回穫 後散 穫 旬後	さび病 べと病 (褐斑病)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	1. ICボルドー66D 50倍(2kg)	—	—	300ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ

※小粒種(デラウェア)と大粒種で、農薬使用基準が異なる場合があるため、小粒種と大粒種を混植している園では飛散等に注意する。特に使用時期が異なる農薬スミチオン水和剤40を使用する際は注意する。

ぶ(デラ
どウエ
うア)